日経平均株価
２万２４７８円７９銭
▲１２３円３３銭（前日比）
ＴＯＰＩＸ
１５８２．８０
▼０．２９（前日比）

marketpress.jp
証券市場新聞
2020
6/22
月曜日
発行元　株式会社 証券市場新聞社
〒542-0081　大阪市中央区南船場3-7-27 NLC心斎橋ビル6C
TEL 06-6105-1904　FAX 06-7635-7861
marketpress.jp

夏のＩＰＯシーズン到来

コロナ乗越え打たれ強い企業多い

目玉はアイキューブか？

6月24日の**コパ・コーポレーション**（7689）の東証マザーズへの上場を皮切りに夏のＩＰＯシーズンが到来する。前回3月の春のＩＰＯでは、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて国内外のマーケットが暴落するなかで、公開価格割れや低水準の初値形成が相次いだ。しかし、今回は全般のマーケットが落ち着いているうえ、マザーズ指数が高値を更新しており、新興株物色が活発化するなかでのＩＰＯとなる。成長が見込める企業はセカンダリーでも妙味がありそうだ。

今夏ＩＰＯは打たれ強い銘柄が多い？

今夏は現時点で6月24日のコパ・コーポレーションと**ロコガイド**（4497）、**フィーチャ**（4052）の3社同時上場を皮切りに7月15日の**ＧＭＯフィナンシャルゲート**（4051）まで計11社が控えており、7月10日のジャスダック上場予定の**Ｓｐｅｅ**（4499）を除けば、全てがマザーズへの上場となる。業態や業種で事業環境は異なるものの、今夏のＩＰＯ企業で総じて言えることは、新型コロナウイルス感染拡大とそれに伴う緊急事態宣言による経済悪化を乗り越えての上場であり、打たれ強い企業が多いという判断はできよう。

ロコガイドは3月18日に上場中止が発表されており、今回は再チャレンジとなる。公開株数の多さから上値は重たくなる可能性があるが、チラシ・買い物情報サービス「トクバイ」の運営で知名度が高く、個人投資家から人気を集める可能性があろう。一方、高初値が期待されるのが7月15日の**アイキューブドシステムズ**（4495）。同社も再チャレンジだが、エンタープライズモバイル管理サービス「ＣＬＯＭＯ」を手掛け、クラウドと働き方改革という人気の出易いテーマを有し、小型案件と好条件が揃っている。ＧＭＯフィナンシャルゲートも決済処理サービスを手掛け、ＧＭＯグループの一員から人気化が期待できよう。

日経平均日足チャート

4月最終週からの動意銘柄

Hamee値上りトップ

EC好調で20年4月期計画超

週明け15日、Hamee（3134）は値上がりトップ。20年4月期決算を発表、連結売上高で従来予想の112億8800万円に対して113億2500万円（前の期比9・9％減）、営業利益で14億2700万円に対して17億4400万円（同50・0％増）と計画超で着地した。EC利用など消費行動の変化による市場拡大の影響が見られたことから、国内卸販売の落ち込みをカバーし、前年同期に対して大幅な増収となった。

サンリオ計画未達

サンリオ（8136）が3日続落。20年3月期決算を発表、連結営業利益で従来予想の40億円に対して21億600万円（前の期比56・0％減）と計画未達となった。サンリオピューロランドやハーモニーランドでは、2月22日から臨時休園となったがこのことも大きな影響を与えている。同時に中期経営計画の取り下げを発表している。

ネオジャパン上振れ観測

ネオジャパン（3921）が大幅高で年初来高値更新。21年1月期第1四半期の連結決算は、営業利益は2億8200万円で着地、通期計画の5億4000万円（前期比22・6％減）に対して順調な進捗となった。主力のグループウェアが好調で、収益上振れ観測が強まっている。

鉄鋼、海運上昇目立つ

16日、日本製鉄（5401）や日本郵船（9101）など鉄鋼株と海運株の上昇が目立った。業種別騰落率で鉄鋼がトップ、海運が2位となった。全般急反発地合いのなか、買戻しを巻き込んで出遅れ修正の動きが加速しており、鉄鋼は資源価格回復、海運はバルチック海運指数が12連騰するなど市況好転による収益改善が期待された。

半導体関連は急反発

東京エレクトロン（8035）、レーザーテック（6920）など半導体関連が急反発。前日の米株市場でSOX指数が続伸し、東京市場にもハイテク株物色の流れが波及。米商務省が5Gを巡る中国ファーウェイと米企業の議論を容認すると発表したことで、半導体分野の米中対立懸念が和らいだ。

新興バイオS高続出

新興バイオ株にストップ高続出。ソレイジア・ファーマ（4597）は新規抗がん剤の主要評価項目達成、オンコリスバイオファーマ（4588）は核酸系逆転写酵素阻害剤のライセンス契約、イナリサーチ（2176）は新型コロナウイルス関連試験国内受託が買い手掛かり。

ノムラシスRPAライセンス

17日、ノムラシステムコーポレーション（3940）がストップ高で年初来高値を更新。15日、自動車販売台数で世界トップ3に入る国内自動車メーカー子会社からRPAライセンス契約を受注したと発表したことを受け、引き続き収益貢献が期待された。

正直じいさんの株で大判小判

物色の主体は中小型株

週末19日の東京市場3日ぶりに反発しました。都道府県をまたぐ移動制限が全面解除されたことを受け、買いが優勢でした。もっとも、一時下げに転じるなど上値は重く、下値は堅いものの、薄商いに膠着証1部の売398億円方でマザー年8カ月ぶ夏のIPOけ以降も中なりそうで推奨銘柄ではBBSec（4値を取り、JTエイトレッドピ（4397）、堅調でした。全般底堅さが意識されるなか、中小型材料株の循環物色が続いていますので、過熱感なく高値をうかがう銘柄を狙う方針です。

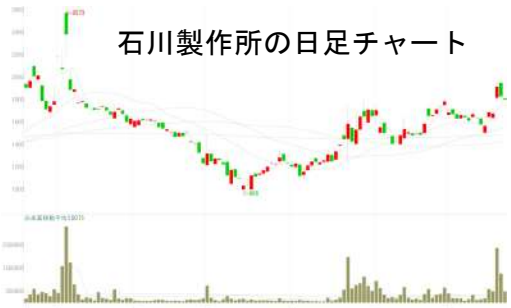
花咲　翁

MSOL（7033）と398）が大幅高で新OWER（4485）や（3969）、チームスエレコム（6750）も

防衛関連が買われる

北朝鮮は南北連絡事務所爆破

17日、**石川製作所**（6208）や**豊和工業**（6203）、**細谷火工**（4274）、**重松製作所**（7980）の防衛関連が買い進まれた。北朝鮮による南北連絡事務所爆破を受けた地政学リスクの高まりが材料視された。アメリカ国務省は北朝鮮に対して自制を求める声明を発表し、中国とロシアも懸念を示しているという。



JHD上場廃止猶予期間入り

ジェイホールディングス（2721）が急落。上場廃止にかかる猶予期間入り銘柄になったことと、内部統制報告書に重要な不備があった発表した。不動仲介とWeb事業の低迷で19年12月期は計画を下回り、最終損益2億9500万円の赤字となり、債務超過に陥った。連結子会社のシナジー・コンサルティングの不動産取引の一部に不適切な会計処理が実施された疑義が確認された。

企業観察　ハリマ化成G（4410）

厳しい状況も回復の兆候

ハリマ化成グループ（4410）は21年3月期の連結業績について、売上高730億円（前期比1・7％増）、営業利益19億円（同49・4％減）を予想。新型コロナウイルス感染の影響額を売上高で約20億円、営業利益で約5億円のマイナス要因と見て厳しく見積もった。

決算発表から約1カ月半を経ったが、印刷用インキは需要縮小が続き、樹脂はガムロジン価格値下りにより採算が悪化、電子材料は自動車向け中心に需要が低迷するなど厳し状況に変わりはない。感染拡大による原料調達難に備えユーザーが在庫を積み増した反動で、足元の受注がスローダウンしていることも追い打ちをかけている。

ただ、こうしたなかでも回復の兆候は見え始めた。中国は春節に一部生産を停止したが、ほぼ通常通りの操業に回復。特に製紙用薬品は米国からの古紙パルプ輸入拡大を背景に引き合いが強まっており、山東新工場の操業度は予想を上回り8割程度までアップした。

さらに、欧州基準のBfR認証の紙力増強剤で米国販売をテコ入れ、中国樹脂事業をローター社に移管、事業再編による拡販戦略の効果も今後表面化してくる。

製紙薬品需要強く再編効果も

キャンディルはS高

18日、**キャンディル**（1446）がストップ高。キャンディルデザインが酸化チタン・過酸化ナトリウム配合「抗ウイルス・抗菌剤CA1100」の小分けタイプの販売を開始すると発表した。アルコール系消毒剤の不足や次亜塩素酸水の取り扱い注意報道を受け、オフィス内や家庭での使用に便利な「パウチタイプ」と在庫が枯渇気味の「詰替え用高機能スプレーボトル」も合わせて用意している。

NTN赤字大幅拡大

NTN（6472）が大幅続落。20年3月期の連結決算は計画を下回り、最終損益439億9200万円の赤字（前の期69億5800万円の赤字）と赤字が大幅に拡大した。従来予想は5億円の黒字。新型コロナ感染拡大の影響で需要が低迷、減損などの特別損失を計上した。

転ばぬ先のテクニカル

売買代金の増加が待たれる

先週の東京株式市場は反発しました。週明け月曜日にいきなり774円安して先週お伝えしましたBOX下限にタッチ、翌火曜日は1051円高と今度はBOX上限にタッチするといった具合でボラティリティの高い始まりでしたが、その後は売買代金が尻すぼみとなり勢いが止まりました。

先週は25日と200日の移動平均線がゴールデンクロスしてきたことで、次は13週と26週移動平均線のゴールデンクロスが待たれるところですが、それにはまだ2～3週ほど時間が掛かります。一時の短期過熱指標も落ち着き、テクニカル指標には強気シグナルが徐々に揃ってきていますが、上昇再開には売買代金の増加が欠かせません。

NYダウが200日線に頭を押さえられ、上に残した日足の窓を埋めることが出来ませんので薄商いの中、短期の急落に注意です。

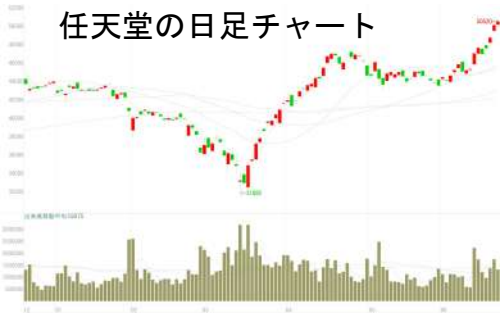
日々勇太朗

今週の動意銘柄

任天堂5万円乗せ

スイッチ人気で幅広い買い

任天堂の日足チャート



18日、**任天堂**（7974）が続騰、一時、2008年9月以来、11年9カ月ぶりの5万円乗せとなった。新型コロナウイルスの感染拡大以降、巣籠の動きから自宅で楽しめるエンターテインメントとしてゲームが人気を集めており、「あつまれどうぶつの森」や「ポケットモンスター」などヒットタイトルを多数有し、ニンテンドースイッチが普及する同社株には幅広い買いを集めている。

東エレク16%増益見込む

週末19日、**東京エレクトロン**（8035）が大幅続伸。未定としていた21年3月期の業績予想を発表、連結売上高で1兆2800億円（前期比13・5%増）、営業利益で2750億円（同15・9%増）を予想。半導体やFPD市場では、IoT／5G／AIの普及により中長期的に需要が拡大する見通しで、半導体製造装置やFPD製造装置市場はともに10%程度の増加を見込んでいる。

西松屋チS高で新値

西松屋チェーン（7545）がストップで年初来高値更新。21年2月期の単独業績について、営業利益を47億円から67億1600万円（同3・5倍）へ上方修正した。消耗品や衛生雑貨、衣料、玩具などを販売が好調で、夏物衣料も伸びている。

ペッパー事業売却伝る

ペッパーフードサービス（3053）がストップ高。「ペッパーランチ」事業を売却する方針を固めたと伝わったことが買い手掛かりになった。食肉卸大手のエスフーズやコメ卸最大手の神明ホールディングスによる連合などが買収に名乗りを上げるとみられるという。

コロナ放れ・国策に売なし・不景気の株高・日経平均24000円目標急落押目先回り買ＯＫ

◎当面30～50%高大局倍化目標 門外不出の大伸流底値買投資成功法試見(6月16日)

国際帝石→500～550円買→816円に上昇中→大局1000～1100円目標先回り押目買
コマツ→1600円前後買→2360円に上昇中→大局3000～3500円目標先回り押目買
アルプス→900円前後買→1648円に上昇中→大局2500～2600円目標先回り押目買
ヤマハ発動機→1200円前後買→1835円に上昇中→大局2800～3000円目標先回り押目買
日本郵船→1100～1200円買→1661円に上昇中→大局2500～3000円目標先回り押目買
三井金属→1800円前後買→2503円に上昇中→大局3000～3500円目標先回り押目買
日本ケミコン→1100円前後買→1840円に上昇中→大局2500～3000円目標先回り押目買
ＡＮＡ→2000～2200円買→2936円に上昇中→大局3500～3600円目標先回り押目買

◎株は論より証拠・上記の如く(会員指示ずみ)30～50%高予想のお試し銘柄1回(無料)お知らせします(成果を確認してください)

田舎の名医が目標なり(会員のみ知る)　(実績40年) 金融商品取引業者 登録番号 東海財務局長(金商)第45号(一般社団法人)日本投資顧問業協会会員

大伸経済研究社
電話058-243-5690 (午前8:30～11:00)
〒501-3144 岐阜市芥見大般若2-25-2

会費1ヶ年50万円、2ヶ年80万円(継続同額)(税込)
(会費が高い少数の会員制なり)(広告参照)
(1年後の成果に自信ありお試しください)
(電話等による入会勧誘は一切致しません)
インターネットでの資料請求はここをクリック！

公表銘柄は一例であり全てではありません
目標値は当社独自の分析による予想値です

有価証券の運用には、価格変動リスク、株式発行者の信用リスク、流動性リスクがあります。運用の結果、元本を割り込み、損失を被ることがあります。リスクに関して詳しくは契約締結前の書面をご覧ください。

企業レター

第41期定時株主総会株主総会

バーチャル型も初導入

新型コロナ対応の株主総会を開催

カプコン（9697）が6月17日に大阪市中央区の大阪キャッスルホテルで第41期定時株主総会株主総会を開催した。

新型コロナウイルスの流行を踏まえて、会場入り口には自動検温機を設置、会社側の総会出席者全員がマスクを着用し、株主側の座席間の距離をあけるソーシャルディスタンスも徹底。これに加えて来場しなくてもインターネットを用いて遠隔地などから株主総会への参加が可能となる「ハイブリッド参加型バーチャル株主総会」も導入された。

辻本春弘社長は総会の席上、ダウンロード（DL）販売比率拡大などによる現況の好調な業績動向を説明し、中高生向けのモンスターハンターの開発やAppleアーケードに代表されるクラウドゲームの動向など株主からの質問に答えていた。

同社は次世代ゲーム機であるPlayStation5、Xbox Series X、PC向けに「バイオハザード ヴィレッジ」と完全新規IP「プラグマタ」を発売することも先頃発表した。

「バイオハザード ヴィレッジ」は、「バイオハザード7 レジデント イービル」の続編。次世代機における新たな「バイオハザード」の世界を提供し、2021年の発売に向け、開発を進めており、次世代ゲーム機向けソフトの動向も今後注目されていくことになりそうだ。

購読会員募集中！

アンジェスは紹介後に株価６倍化！！

高野恭壽の株式情報 これでどや!!

https://marketpress.jp/kabu-takano/

marketpress 証券市場新聞

チャートから読む騰落銘柄

JCRファーマ（4552）

６月３日に付けた最高値１万２８５０円更新後に調整を続けていたが、６月１５日に５０日移動平均線となる１万１１５０円の安値を付けた後は出直る。国産初のライソゾーム病治療酵素製剤への期待継続。

エイトレッド（3969）

２５日線の上昇で、２カ月におよぶ年初来高値圏での保ち合いが煮詰まる。週足が再び陽転し大勢上昇トレンドを確認。本格反騰へ体制が整い、株式分割後に付けた実質最高値２２８５円を上抜き一段高へ。

トプコン（7732）

６月８日に１０８７円まで上昇した後は軟調な動き続き、上昇前の水準である５０日移動平均線近辺まで下げる。建機の需要不透明で業績不安続き、６３万株超の買い残も重石。３月１９日安値６５１円も意識。

NTTドコモ（9437）

３月２７日に付けた実質最高値３４７５円で天井感。日足陰転のあとは５日線に上値を抑えられ下値模索が続き、週足の陰転も近い。押目買に信用買い残が積み上がり、年初来安値２７００円割れ回避へ正念場。

※チャートは日足

潮流

経済成長には政府支出必須

MMT理論を容認したパウエル

岡山 憲史氏（株式会社マーケットバンク 代表取締役）のプロフィール

１９９９年２月日本初の資産運用コンテスト「第一回Ｓ１グランプリ」にて約１万人の参加者の中から優勝。直近では２０１７年１月に始まった夕刊フジ主催の「株・１グランプリ」において優勝。１カ月間における３銘柄の合計パフォーマンスでは１５５％と断トツの結果。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。http://marketbank.jp

米連邦準備理事会（ＦＲＢ）は新型コロナウイルスの感染拡大で打撃を受けた中小企業に対する融資制度の利用受け付けを開始した。６０００億ドル（約６４兆円）を融資する。リーマン・ショック後にもなかった異例の危機対応策で、中小企業の資金繰りを支える。政府の積極的な財政支出は、経済活動の再開でも後退する気配は全くないため、過剰流動性相場が更に強化されることになる。それが相対的に経済回復の恩恵を受けやすい上場企業の回復期待を更に意識させることとなり、株価の上値に繋がる。

日本の「失われた２０年」のデフレ経済を振り返ればわかるように、異常に貨幣価値が高まることは経済にとってマイナス。異常な貨幣需要を抑制するために中央銀行は積極的に今後も流動性を供給することになるため、政策によりモノやサービスの相対的価値が自ずと上昇することになる。なぜなら、モノやサービスの貨幣に対する相対価値が上昇するまで政策を継続することが期待できるからだ。

３月半ば以降、ＦＲＢの保有する米国債は１．６兆ドル増え、今後も月８００億ドル購入する。米政府は経済対策で４～６月期に３兆ドルの資金調達を行う。事実上、ＦＲＢが調達を支える財政ファイナンスの状態にある。パウエル議長は「米国の強力な財政余力を使うべき時だ。我々も経済を支えるために、やれることをやる」という。財政支出拡大の必要性を説いているＭＭＴ理論を容認した。

ＦＲＢ財政ファイナンス状態

ＭＭＴ理論とは近年関心を集めた経済理論で「自国通貨を発行する政府は債務不履行に陥らないので、過度なインフレにならない限り、財政赤字をいくら拡大してもいい」というものだ。金利上昇が心配なら中央銀行が国債を買って抑えればいいと説く。

ＭＭＴ理論を完全否定していたパウエル議長がコロナ危機で考え方を変えた。日本は間違った経済理論を２０年以上続けてきた故に、今や経済力・学力・国力など先進国とは到底思えない程、落ちぶれた国になってしまった。今までの経済理論は間違いであると、既に答えは出ているのだ。政府支出を増やさない限り経済成長はしない。政府は日本の将来を考えるならＭＭＴ理論を経済政策の中心とし、失ったものを取り戻すことが最も重要な使命である。

潮流銘柄は**カオナビ**（４４３５）、**オンコリスバイオファーマ**（４５８８）、**ヤーマン**（６６３０）。

下値堅いが上値も重い

要人発言に振り回される

敏腕先物ディーラー

ハチロクの裏話

ハチロクのプロフィール

証券アナリストから証券会社の法人部長を経て、２２５先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における２２５先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。

先週の日経平均は週前半に乱高下したが結局前週比１７３円（０・８％）高となった。

売り崩そうにも下がれば何かしらのリップサービスが発表されすぐに買い戻されてしまう。過剰流動性相場はこういった要人の発言に振り回される相場である。特に米国はトランプ氏が大統領選を控えているので、何としても株価は維持させる方向で色んな手をこれからも出してくると思われる。下げにくい相場であるが、この水準からは上値も重い相場である。

今週は動き始めた経済活動による感染者数や対立を深める米中関係の動向を横目に、揉み合い相場となろう。

チャート的には下落していた５日線（２万２２８０円処）が上向きに転じ、２００日移動平均線と２５日移動平均線がゴールデンクロスを形成。上昇相場入りを示唆している。実際、先週は下値切り上げ型のチャートを形成している。

米中関係に振り回される

しかし、一目均衡表の転換線（２万２３５７円処）と基準線（２万１５０９円）が横ばいとなっており、揉み合い相場を示唆している。さらに、ボリンジャーバンドが収斂してきており、大きく動きにくくなってきている。このため今週は下値は堅いが、２万３０００円台に近付くと売りが出てくる相場展開を想定する。

新値三本足の陽転値が２万２８６３円７３銭なので、上値ではこの水準が意識されよう。抜けてくれば２万３０００円台乗せもあろう。一方、下値は転換線が意識されよう。引け値で明確に下回ってくれば、売りが出やすくなると思われる。その下は節目の２万２０００円、２５日移動平均線（２万１８９８円処）が抵抗ラインになってくる。

今週は２万１９００円から２万３０００円を想定する。

（ハチロク）

日経225先物日足チャート

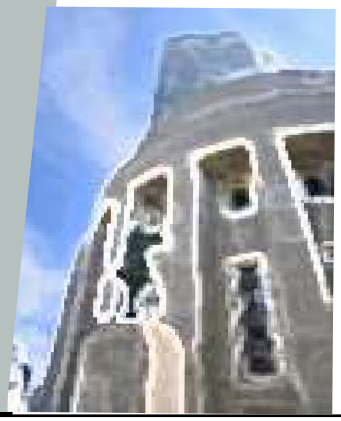
星野三太郎の 株街往来

～社会的距離の限界～

緊急事態宣言が解除されてからほぼ半月以上が経過した。解除直後は通勤ラッシュ時でも座れる状態だったが、今では感染拡大以前と変わらぬ混雑状況にある。テレワークは定着すると予測する専門家が多かったが、実際には出社する方が多いのだと思う。

ただ、昼食時に飲食店を探していると、牛丼などのファーストフードチェーンは例外として、個人経営の店では廃業してしまったところが多いのには驚いてしまった。ソーシャルディスタンス（社会的距離）が求められるなかで、店内の座席数を制限すれば、必然的に1日の売上高は数分の1になってしまう。大阪のシンボル的存在として親しまれてきた新世界のふぐ料理店「づぼらや」が、9月に閉店してしまうことには驚いてしまったが、今後もこのような老舗の閉店が続けば、その都市や町の文化が失われていく不安を抱いてしまった。

無観客で開幕のプロ野球も、先行き入場可能になったとしても数万人規模の動員をしないと経営破綻する球団も出てくるだろう。社会的距離で新たな生活での経済活動には限界がある。コロナ以前の活動に戻さないと未来はないと感じた。



New product

サッポロビール

選りすぐった果汁と岩塩

レモン・ザ・リッチ シチリア塩レモン

レモン・ザ・リッチ シチリア塩レモン

サッポロホールディングス（２５０１）のグループ企業であるサッポロビールは、「サッポロ　レモン・ザ・リッチ　シチリア塩レモン」を６月３０日に全国で数量限定発売する。

レモンの良いところを選りすぐった果汁を使用し、香り高く深みのある濃い味わいを実現。レモンの濃い果汁感とほんのりしょっぱいシチリア産岩塩の味わいが特長。パッケージは、金色とさわやかな水色をベースとした、夏らしさを感じるカラーリングとし、「シチリア」「塩」の文字を入れた六角形のアイコンにより、シチリア産岩塩を使用していることをわかりやすく表現している。参考小売価格は１５０円（税抜）。

企業レター

大きくてあま～い

日本トリム

電解水素水で育てた「草津メロン」

電解水素水で育てた「草津メロン」

日本トリム（６７８８）の電解水素水で育てた大きくてあま～い「草津メロン」が限定３００セットで特別販売している。滋賀県草津市の名産「草津メロン」は、全国でもトップレベルの糖度を誇ったブランドメロン。通常の琵琶湖水で育った草津メロンの特秀糖度は１４度以上。これでも十分に甘くて美味しいが、今回特別販売する横江農園で育てられたメロンは、日本トリムの電解水素水を使って育てているので平均糖度１７度前後とより甘く大きく育っている。

６月２８日までの限定で、横江農園のＷＥＢページ（https://yokoenouen.theshop.jp/）で注文が可能。

記者の視点

相場見通し

BOX圏の動きか？

アップル開発者会議に注目

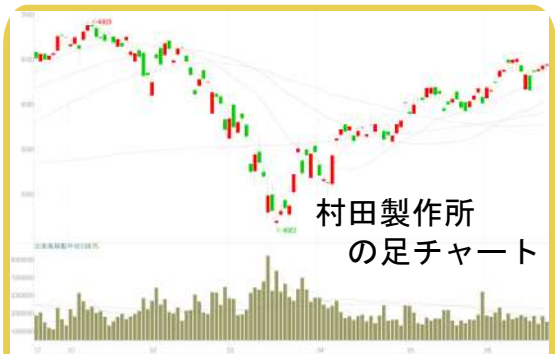
6月第3週の東京市場は週初では東京都や中国・北京、米国などでの新型コロナウイルスの感染拡大を受けて急落する場面があったが、その後は米国では広範囲の社債購入や中小企業向け融資制度を開始、国内では日銀会合の結果が公表され、企業の資金繰り支援の枠組みを75兆円から100兆円に拡大することが伝わると16日には日経平均で105円超の大幅高となった。

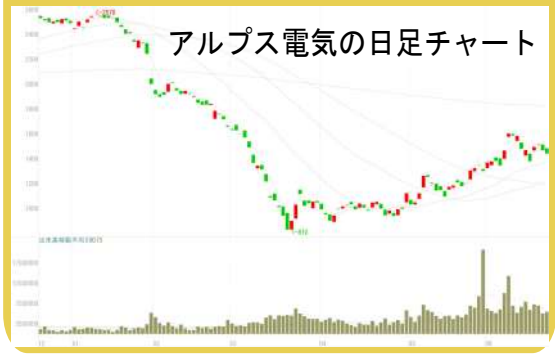
その後は、米国でウイグル人権法が成立したことで、米中関係悪化懸念が台頭していたが、米中外交トップ会談を受けて、過度に売り込む動きにはならなかった。

不安材料には事欠かず、これまでの急ピッチな上昇から高値警戒感は拭えないが、各国中央銀行による手段を選ばない金融緩和と財政支出を受けて国内外のマーケットは底堅さを維持している格好だ。先物主導で値動きとなっていたが、米国では日本のSQに相当するクアドルプルウィッチングが19日に通過することで、ひとまずは先物での需給不安は後退する。

第4週は25日の米1～3月期GDP確報値と米5月耐久財受注以外は主要な経済指標の発表はなく、25日と26日は中国が端午節で休場となるため、海外発で株価が振らされる動きは限定的。ただ、この水準から一段と上値を追うには材料不足ともいえ、BOX圏での推移を想定する。

個別では22日に米アップル社が世界開発者会議をオンラインで開催することから、**村田製作所**（6981）や**アルプス電気**（6770）など電子部品関連に注目しておきたい。





今週のスケジュール

- 19日　米1-3月期経常収支(21:30)
- 22日　5月コンビニエンスストア売上高(4:00)
  米5月中古住宅販売件数(23:00)
- 24日　6月15・16日開催の日銀金融政策決定会合の「主な意見」
  5月企業向けサービス価格指数(8:50)
  独6月Ifo景況感指数(17:00)
- 25日　4月全産業活動指数(13:30)
  米1-3月期GDP確報値(21:30)
  米5月耐久財受注(21:30)
  休場：中国(～26日)/台湾

編集後記

都道府県をまたぐ移動制限が全面解除されたが、感染が終息したわけではなく、外出時のマスク着用は必須、当然のマナーで着け忘れでもしようものなら周囲から白い目で見られてしまう。ただ、気温が上がってくるとマスクは暑くて息苦しい。地下鉄の階段を上がるだけでも大変。まして今年の夏は猛暑が予想されており、熱中症への注意が喚起されている。

最近ニュースで紹介されたり、ネットショップでよく見かける冷感マスクだが、どれだけ効果があるか試してみる必要がありそうだ。

【ご注意】証券市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測の的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被られたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。